

自分で課題を見つける

校長 相川 保 敏

先日、5月31日に経済産業省が今後の人材政策などを検討するために設置した「未来人材会議」から、未来を支える人材の育成・確保に向けた方向性を示す「未来人材ビジョン」の取りまとめが公表されました。その中には、グローバル社会の中で世界と戦っている大企業の社長・役員の方々の意見や考えを基に、基礎能力や高度な専門知識だけではなく、これからの時代に必要とされる能力やスキルが4つ示されました。

- 常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力
- 夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢
- グローバルな社会課題を解決する意欲
- 多様性を受容し他者と協働する能力

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基礎スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基礎スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

また、この中で左表のように、各職種で求められるスキル・能力の需要度（平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整）が、2015年の「注意深さ・ミスがないこと」「責任感・まじめさ」などから、「問題発見力」「的確な予測」「革新性」など、子どもたちが日本の社会の中核として活躍する2050年には一層求められていくと予想されています。

これまでの日本は、技術大国と言われ、高い国際競争力を誇っていました。

しかし、日本の国際競争力は、この30年で1位から31位に落ちてしまいました。この間に、日本の年平均賃金は韓国に追い越され、約46万5千円も低くなっています（OECD主要統計「平均賃金」2020年比較、1\$=¥135で換算）。

世界で戦える人材を育成していくには、当然ながら、これまでの日本の教育も見直していく必要があります。小学校教育においても、本校がこれまで大切にしてきたコンピテンシーである

- ★自ら課題を見つけ、解決に向けて行動できる力
- ★社会・世界に関わり、よりよい人生を送る力
- ★よりよい社会・世界を形成する力

の育成が必須になってくると考えます。

しかし、こうした力は一朝一夕で身に付くものではありません。学校教育や家庭生活、社会体験など、すべての機会において積み上げ育てていくものと考えています。

そこで、子どもたちが楽しみにしている夏休みに、取り組んでほしいことがあります。それは、問題発見力、つまり「自ら課題」を見つけることです。素朴な疑問、学校の学習の発展、「本物」の社会課題など、どんなことでもよいと思います。例えば、

- 夏になると車のボンネットは熱くなるけど、何度になるのかな。目玉焼きは焼けるのかな。
 - 「おはようございます」はどの国でも言うのかな。世界中の言葉を調べて、言ってみたいな。
- など、やってみたいことでも構いません。

探究して解決することが理想ですが、まずは、課題を見つけることです。これは、簡単そうで難しいことです。食卓を囲みながら、素朴な疑問、調べてみたいことなど家族で出し合っはいかでしょうか。

最後になりますが、1学期もご理解ご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。夏休み中も健康に留意し、お過ごしいただければ幸いです。